

株主の皆様へ

川崎市川崎区田辺新田1番1号  
(本社事務所 東京都品川区大崎一丁目11番2号)  
ゲートシティ大崎イーストタワー

**富士電機株式会社**

代表取締役社長 北澤通宏

## 第145回定時株主総会招集ご通知に際してのインターネット開示事項のご案内

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、第145回定時株主総会招集のご通知に際して、株主の皆様にご提供すべき書類のうち、下記の事項に係る情報につきましては、法令および定款に基づき、インターネット上の当社ウェブサイト (<https://www.fujielectric.co.jp>) への掲載によりご提供させていただきますので、ご高覧賜りますようお願い申し上げます。

また、ご参考として下記の事項に係る情報を掲載しておりますので、併せてご高覧賜りますようお願い申し上げます。

敬 具

記

インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表

計算書類の個別注記表

(ご参考事項)

連結包括利益計算書

連結キャッシュ・フロー計算書

以 上

# 目 次

## インターネット開示事項

連結計算書類の連結注記表…………… 1頁

計算書類の個別注記表…………… 10頁

## (ご参考事項)

連結包括利益計算書…………… 16頁

連結キャッシュ・フロー計算書…………… 17頁

# 連結注記表

## 連結計算書類作成のための基本となる重要な事項

1. 連結の範囲に関する事項
  - (1) 連結子会社の数  
74社（主要会社名 富士電機機器制御㈱）  
重要性が増加したことにより、当連結会計年度において、富士電機ベトナム社を追加しました。
  - (2) 主要な非連結子会社の名称等  
富士グリーンパワー㈱  
非連結子会社の総資産、売上高、当期純損益および利益剰余金等は、いずれもそれぞれ小規模であり、全体としても連結計算書類に重要な影響をおよぼしていません。
2. 持分法の適用に関する事項
  - (1) 持分法適用の非連結子会社数および関連会社数  
持分法適用の非連結子会社数  
2社（富士ファーマナイト㈱、富士古河E&C(タイ)社）  
持分法適用の関連会社数  
2社（メタウォーター㈱、メタウォーターサービス㈱）
  - (2) 持分法を適用していない非連結子会社および関連会社（大韓エフエーシステム社等）の当期純損益および利益剰余金等は、いずれもそれぞれ小規模であり、全体としても連結計算書類に重要な影響をおよぼしていないため、これらの会社に対する投資については持分法を適用せず、原価法によっております。
3. 連結子会社の事業年度等に関する事項  
一部の連結子会社の決算日は12月末または1月末であります。当該会社については、連結計算書類の作成にあたって、原則として、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく計算書類を使用しております。
4. 会計方針に関する事項
  - (1) 重要な資産の評価基準および評価方法
    - ①有価証券  
その他有価証券  
時価のあるもの  
決算期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しております。）  
時価のないもの  
移動平均法による原価法により評価しております。
    - ②たな卸資産
      - イ) 製品および仕掛品  
主として個別法または総平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）により評価しております。  
ただし、一部の連結子会社の製品については最終仕入原価法により評価しております。
      - ロ) 原材料および貯蔵品  
最終仕入原価法により評価しております。
    - ③デリバティブ  
時価法により評価しております。

- 
- (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法
- ①有形固定資産（リース資産を除く）  
主として定率法を採用しております。  
ただし、国内の連結会社は1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。
- ②リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ①貸倒引当金  
売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
- ②役員退職慰労引当金  
役員の退職慰労金の支出に備えるため、一部の連結子会社は内規に基づく連結会計年度末要支給額を計上しております。
- ③製品保証引当金  
製品の品質に関する保証費用の支出に備えるため、過去の発生実績および特定案件の発生見込に基づき、今後必要と見込まれる額を計上しております。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ①退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
- ②数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法  
過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数による定額法により費用処理しております。  
数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生の日翌連結会計年度から費用処理しております。
- (5) 重要な収益および費用の計上基準  
完成工事高および完成工事原価の計上基準
- イ) 当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- ロ) その他の工事  
工事完成基準
- (6) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準  
外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。  
なお、在外子会社等の資産および負債、収益および費用は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定および非支配株主持分に含めて計上しております。
- (7) 重要なヘッジ会計の方法  
繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、一体処理（特例処理、振当処理）の要件を満たしている金利通貨スワップについては一体処理によっております。
- (8) のれんの償却方法および償却期間  
5年間または10年間の均等償却を行っております。
- (9) その他連結計算書類作成のための重要な事項
- ①消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

## ②連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

## ③連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社および一部の国内連結子会社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行およびグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産および繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## 表示方法の変更に関する注記

（連結貸借対照表）

前連結会計年度において、「流動負債」の「その他」に含めていた「製品保証引当金」（前連結会計年度は219百万円）は重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。

（「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用）

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当連結会計年度より適用し、連結計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

## 重要な会計上の見積りに関する注記

### 1. 工事進行基準の適用による工事収益の認識

#### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

売上高（工事収益）	66,897百万円
売掛金残高（工事未収入金残高）	30,754百万円

（注）上記の金額は、工事進行基準が適用される工事契約のうち、当連結会計年度末時点で未完成・未引渡しの工事契約を対象として記載しております。（工事契約が完成し、その引渡し完了した案件は含めておりません。）

#### (2) 連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

##### ①算出方法

当社グループは、当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約の収益の計上基準として、工事進行基準を適用しております。

工事進行基準による収益は、工事進捗率に基づき測定し、進捗率は案件の工事原価総額の見積りに対する当連結会計年度末までの発生原価の割合に基づき算定しております。（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

##### ②主要な仮定

工事原価総額の見積りは、外部から入手した見積書や社内で承認された標準単価等の客観的な価格により詳細に積み上げて算出していますが、工事に対する専門的な知識と経験に基づく一定の仮定を伴うため、工事原価総額の見積りが主要な仮定であります。

##### ③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

工事原価総額の見積りは、一般に工事が長期にわたることから、工事の進行途上における工事契約の変更、材料費や労務費等の変動が生じる場合があり、その場合には、工事原価総額の見積りが変動することに伴い、工事進捗率が変動することにより、翌連結会計年度の連結計算書類において認識する収益の金額に影響を与える可能性があります。

## 2. パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用に対する製品保証引当金

### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用に対する  
製品保証引当金残高 15,476百万円

### (2) 連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

#### ①算出方法

製品の品質に関する保証費用の支出に備えるため、パワー半導体の特定分野向けの一部製品の不具合対策費用の発生見込を踏まえ、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

#### ②主要な仮定

パワー半導体の特定分野向けの一部製品の不具合は、製品内部の調達部品の問題により、製品の使用環境に依存して生じることから、当社が把握している顧客の設備の用途および使用条件等に基づいて、本不具合が発生する範囲を仮定し、不具合対策費用を見積もっております。

#### ③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

不具合対策費用の算出の根拠とした仮定と差異が生じた場合には、翌連結会計年度の連結計算書類に影響を与える可能性があります。

## 3. 退職給付債務の算定

### (1) 当連結会計年度の連結計算書類に計上した金額

退職給付に係る資産残高 21,043百万円  
退職給付に係る負債残高 53,322百万円  
退職給付に係る調整累計額 1,351百万円

### (2) 連結計算書類利用者の理解に資するその他の情報

#### ①算出方法

当社グループには、確定給付制度を採用している会社が存在します。確定給付制度の退職給付債務は、割引率および年金数理計算上の基礎率（死亡率、退職率、昇給率等）に基づき、給付算定式基準によって見積もっております。

#### ②主要な仮定

当社グループは、主要な仮定である割引率について、主に高格付けの社債利回りに基づくイールドカーブ等価アプローチにより算定しております。

#### ③翌連結会計年度の連結計算書類に与える影響

退職給付債務の算出に用いる割引率に見直しが必要となった場合、翌連結会計年度の連結計算書類における退職給付に係る資産、退職給付に係る負債および退職給付に係る調整累計額の金額に影響を与える可能性があります。

### (注) 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症（以下、本感染症）の拡大により、各国で過去に前例のない規模で経済活動が制限される中、当社グループにおいても納期延伸、設備投資抑制等の影響を受けております。本感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期を予想することが非常に困難なことから、当連結会計年度末時点で入手可能な情報に基づき、翌連結会計年度の一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定のもと、会計上の見積りを行っております。

## 連結貸借対照表に関する注記

### 1. 担保に供している資産およびこれに対応する債務

#### 担保に供している資産

建物および構築物	448百万円
機械装置および運搬具	70百万円
土地	67百万円
無形固定資産	378百万円
投資有価証券	21百万円
計	985百万円

#### 上記に対応する債務

支払手形および買掛金	37百万円
短期借入金	479百万円
計	516百万円

### 2. 有形固定資産の減価償却累計額 418,582百万円

### 3. 偶発債務

#### (1) 金融機関からの借入等に対する債務保証

従業員	242百万円
リース契約に伴う買取保証	2,050百万円
その他12社	4,212百万円
計	6,505百万円

#### (2) 製品不具合に係る偶発債務

当社は、パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用として、当連結会計年度に製品不具合対策費25,727百万円を特別損失に計上しました。当該対策費用の一部については、顧客の設備の用途および使用条件等に基づき合理的と考えられる方法により見積り計上しており、当該見積りに反映されていない事象が発生した場合、追加で損失が発生する可能性があります。

## 連結損益計算書に関する注記

### 1. 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

用途	場所	種類および金額 (百万円)
事業用資産－製造設備	タイ	機械装置、リース設備ほか 627
事業用資産－その他	茨城県下妻市	建物および構築物、土地 174
処分予定資産	三重県鈴鹿市	建設仮勘定 161

当社グループは、主に管理会計上の区分を考慮して資産グループを決定しております。

事業用資産－製造設備については、変電事業における連結子会社の現在の事業環境を踏まえて将来計画を見直した結果、その資産グループの帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（627百万円）として特別損失に計上したものであります。

その内訳は、機械装置171百万円、リース設備331百万円、その他123百万円であります。

なお、回収可能価額は割引率を12.6%として算出した使用価値により測定しております。

事業用資産－その他については、拠点の再編に伴い倉庫に転用する資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（174百万円）として特別損失に計上したものであります。

その内訳は、建物および構築物72百万円、土地102百万円であります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、売却が困難な資産であるため、正味売却価額を零と評価しております。

処分予定資産については、今後の使用見込みがないため帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（161百万円）として特別損失に計上したものであります。

なお、回収可能価額は正味売却価額により測定しており、売却や他への転用が困難な資産であるため、正味売却価額を零と評価しております。

### 2. 製品不具合対策費

パワー半導体の特定分野向けの一部の製品について不具合が生じたため、製品不具合対策費（25,727百万円）として特別損失に計上したものであります。



## 連結株主資本等変動計算書に関する注記

### 1. 発行済株式の種類および総数ならびに自己株式の種類および株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度末 株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	149,296	－	－	149,296
合計	149,296	－	－	149,296
自己株式				
普通株式 (注)	6,454	3	0	6,457
合計	6,454	3	0	6,457

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加3千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。  
2. 普通株式の自己株式の株式数の減少0千株は、単元未満株式の売却による減少であります。

### 2. 配当に関する事項

#### (1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2020年5月29日 取締役会	普通株式	5,713	40.0	2020年3月31日	2020年6月29日
2020年10月29日 取締役会	普通株式	5,713	40.0	2020年9月30日	2020年12月1日

#### (2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年5月27日 取締役会	普通株式	6,427	利益剰余金	45.0	2021年3月31日	2021年6月9日

## 金融商品に関する注記

### 1. 金融商品の状況に関する注記

当社グループは、資金運用については短期的な預金等に限定し、資金調達については銀行等金融機関からの借入等のほか、社債やコマーシャル・ペーパーの発行を行っております。

運転資金は主として短期借入金およびコマーシャル・ペーパーにより調達し、設備投資に係る資金は主として長期借入金および社債により調達しております。

受取手形および売掛金に係る顧客の信用リスクは、与信管理規程に沿ってリスク低減を図っております。また、投資有価証券は主として株式であり、上場株式については四半期ごとに時価の把握を行っております。

デリバティブ取引は、当社グループの運用ルールに基づき、外貨建債権債務に係る為替変動リスクに対して先物為替予約取引を、借入金の金利変動リスクおよび為替変動リスクに対して金利通貨スワップ取引を、原材料価格変動リスクに対して商品スワップ取引を、それぞれ各リスクのヘッジを目的として、実需の範囲で行うこととしております。

### 2. 金融商品の時価等に関する注記

2021年3月31日（当期の連結決算日）における連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（(注2) 参照）。

（単位：百万円）

	連結貸借対照表計上額（*1）	時価（*1）	差額
(1) 現金および預金	76,546	76,546	－
(2) 受取手形および売掛金	319,644	319,611	△ 32
(3) 投資有価証券	122,284	136,587	14,302
(4) 支払手形および買掛金	(167,260)	(167,260)	－
(5) 短期借入金	(21,744)	(21,744)	－
(6) リース債務（流動負債）	(18,376)	(18,376)	－
(7) 社債	(35,000)	(34,925)	△ 74
(8) 長期借入金	(96,686)	(96,859)	173
(9) リース債務（固定負債）	(43,226)	(43,744)	518
(10) デリバティブ取引（*2）			
①ヘッジ会計が適用されていないもの	(200)	(200)	－
②ヘッジ会計が適用されているもの	464	464	－

（\*1）負債に計上されているものについては、（ ）で示しております。

（\*2）デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目については、（ ）で示しております。

#### （注1）金融商品の時価の算定方法ならびに有価証券およびデリバティブ取引に関する事項

##### (1) 現金および預金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

##### (2) 受取手形および売掛金

これらの時価は、一定の期間ごとに区分した債権ごとに債権額を満期までの期間および信用リスクを加味した利率により割り引いた現在価値によっております。

##### (3) 投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

##### (4) 支払手形および買掛金、(5) 短期借入金、(6) リース債務（流動負債）

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

##### (7) 社債

当社の発行する社債の時価は、市場価格によっております。

(8) 長期借入金、(9) リース債務 (固定負債)

これらの時価については、元利金の合計額を、同様の新規借入またはリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(10) デリバティブ取引

先物為替予約取引の時価は、先物為替相場によっております。また、金利通貨スワップ取引および商品スワップ取引の時価は、取引先金融機関から提示された価格等によっております。

なお、ヘッジ会計が適用されているもののうち、為替予約の振当処理、金利通貨スワップの一体処理 (特例処理、振当処理) によるものは、それぞれ、ヘッジ対象とされている受取手形および売掛金ならびに支払手形および買掛金、長期借入金と一体として処理されているため、それらの時価は、当該ヘッジ対象の時価に含めて記載しております (上記 (2) (4) (8) 参照)。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	連結貸借対照表計上額 (百万円)
非上場株式等 (非連結子会社および関連会社の株式を含む)	13,997

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

**1 株当たり情報に関する注記**

(1) 1株当たり純資産額	2,919円34銭
(2) 1株当たり当期純利益	293円52銭

# 個別注記表

## 重要な会計方針に係る事項

1. 有価証券の評価基準および評価方法
  - (1) 子会社株式および関連会社株式  
移動平均法による原価法により評価しております。
  - (2) その他有価証券
    - 時価のあるもの  
決算期末日の市場価格等に基づく時価法により評価しております。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しております。)
    - 時価のないもの  
移動平均法による原価法により評価しております。
2. たな卸資産の評価基準および評価方法
  - (1) 製品および仕掛品  
主として個別法または総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)により評価しております。
  - (2) 原材料および貯蔵品  
最終仕入原価法により評価しております。
3. 固定資産の減価償却の方法
  - (1) 有形固定資産(リース資産を除く)  
定率法を採用しております。  
ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)ならびに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用しております。
  - (2) 無形固定資産(リース資産を除く)  
定額法を採用しております。  
なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づく定額法を採用しております。
  - (3) リース資産  
リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。  
なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が2008年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。
4. 引当金の計上基準
  - (1) 貸倒引当金  
売上債権等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。
  - (2) 退職給付引当金  
従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務および年金資産の見込額に基づき計上しております。
    - ①退職給付見込額の期間帰属方法  
退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。
    - ②数理計算上の差異および過去勤務費用の費用処理方法  
過去勤務費用については、その発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数による定額法により費用処理しております。  
数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の年数による定額法により按分した額を、それぞれ発生翌事業年度から費用処理しております。

(3) 製品保証引当金

製品の品質に関する保証費用の支出に備えるため、過去の発生実績および特定案件の発生見込に基づき、今後必要と見込まれる額を計上しております。

5. 収益および費用の計上基準

完成工事高および完成工事原価の計上基準

- イ) 当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事  
工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）
- ロ) その他の工事  
工事完成基準

6. 外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、決算期末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

7. ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理によっております。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理に、一体処理（特例処理、振当処理）の要件を満たしている金利通貨スワップについては一体処理によっております。

8. その他計算書類作成のための重要な事項

(1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異および未認識過去勤務費用の未処理額の会計処理の方法は、連結計算書類におけるこれらの会計処理の方法と異なっております。

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっております。

(3) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(4) 連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用

当社は、「所得税法等の一部を改正する法律」（令和2年法律第8号）において創設されたグループ通算制度への移行およびグループ通算制度への移行にあわせて単体納税制度の見直しが行われた項目については、「連結納税制度からグループ通算制度への移行に係る税効果会計の適用に関する取扱い」（実務対応報告第39号 2020年3月31日）第3項の取扱いにより、「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日）第44項の定めを適用せず、繰延税金資産および繰延税金負債の額について、改正前の税法の規定に基づいております。

## 表示方法の変更に関する注記

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」の適用

「会計上の見積りの開示に関する会計基準」（企業会計基準第31号 2020年3月31日）を当事業年度より適用し、計算書類に重要な会計上の見積りに関する注記を記載しております。

## 重要な会計上の見積りに関する注記

### 1. 工事進行基準の適用による工事収益の認識

#### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

売上高（工事収益）	53,927百万円
売掛金残高（工事未収入金残高）	20,504百万円

(注) 上記の金額は、工事進行基準が適用される工事契約のうち、当事業年度末時点で未完成・未引渡しの工事契約を対象として記載しております。（工事契約が完成し、その引渡し完了した案件は含めておりません。）

#### (2) 計算書類利用者の理解に資するその他の情報

##### ①算出方法

当社は、当事業年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事契約の収益の計上基準として、工事進行基準を適用しております。

工事進行基準による収益は、工事進捗率に基づき測定し、進捗率は案件の工事原価総額の見積りに対する当事業年度末までの発生原価の割合に基づき算定しております。（工事の進捗率の見積りは原価比例法）

##### ②主要な仮定

工事原価総額の見積りは、外部から入手した見積書や社内で承認された標準単価等の客観的な価格により詳細に積み上げて算出していますが、工事に対する専門的な知識と経験に基づく一定の仮定を伴うため、工事原価総額の見積りが主要な仮定であります。

##### ③翌事業年度の計算書類に与える影響

工事原価総額の見積りは、一般に工事が長期にわたることから、工事の進行途上における工事契約の変更、材料費や労務費等の変動が生じる場合があります。その場合には、工事原価総額の見積りが変動することに伴い、工事進捗率が変動することにより、翌事業年度の計算書類において認識する収益の金額に影響を与える可能性があります。

### 2. パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用に対する製品保証引当金

#### (1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用に対する 製品保証引当金残高	15,476百万円
--	-----------

#### (2) 計算書類利用者の理解に資するその他の情報

##### ①算出方法

製品の品質に関する保証費用の支出に備えるため、パワー半導体の特定分野向けの一部製品の不具合対策費用の発生見込を踏まえ、今後必要と見込まれる金額を計上しております。

##### ②主要な仮定

パワー半導体の特定分野向けの一部製品の不具合は、製品内部の調達部品の問題により、製品の使用環境に依存して生じることから、当社が把握している顧客の設備の用途および使用条件等に基づいて、本不具合が発生する範囲を仮定し、不具合対策費用を見積もっております。

##### ③翌事業年度の計算書類に与える影響

不具合対策費用の算出の根拠とした仮定と差異が生じた場合には、翌事業年度の計算書類に影響を与える可能性があります。

### 3. 退職給付債務の算定

(1) 当事業年度の計算書類に計上した金額

前払年金費用残高	11,720百万円
退職給付引当金残高	38,366百万円

(2) 計算書類利用者の理解に資するその他の情報

①算出方法

当社では確定給付制度を採用しております。確定給付制度の退職給付債務は割引率および年金数理計算上の基礎率（死亡率、退職率、昇給率等）に基づき、給付算定式基準によって見積もっております。

②主要な仮定

当社では、主要な仮定である割引率について、高格付けの社債利回りに基づくイールドカーブ等価アプローチにより算定しております。

③翌事業年度の計算書類に与える影響

退職給付債務の算出に用いる割引率に見直しが必要となった場合、翌事業年度の計算書類における前払年金費用および退職給付引当金の金額に影響を与える可能性があります。

(注) 新型コロナウイルス感染症の影響について

新型コロナウイルス感染症（以下、本感染症）の拡大により、各国で過去に前例のない規模で経済活動が制限される中、当社においても納期延伸、設備投資抑制等の影響を受けております。本感染症は経済、企業活動に広範な影響を与える事象であり、また、今後の広がり方や収束時期を予想することが非常に困難なことから、当事業年度末時点で入手可能な情報に基づき、翌事業年度の一定期間にわたり当該影響が継続するとの仮定のもと、会計上の見積りを行っております。

## 貸借対照表に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額 202,916百万円

### 2. 偶発債務

#### (1) 金融機関からの借入等に対する債務保証

富士タスコ社	2,573百万円
上海電気富士電機電気技術(無錫)社	1,010百万円
Reliable Turbine Services LLC	663百万円
アジア自販機オペレーション社	635百万円
(株)北海道サラダパプリカ	505百万円
富士グリーンパワー(株)	348百万円
その他	335百万円
計	6,069百万円

#### (2) 製品不具合に係る偶発債務

当社は、パワー半導体の特定分野向けの一部の製品の不具合対策費用として、当事業年度に製品不具合対策費25,727百万円を特別損失に計上しました。当該対策費用の一部については、顧客の設備の用途および使用条件等に基づき合理的と考えられる方法により見積り計上しており、当該見積りに反映されていない事象が発生した場合、追加で損失が発生する可能性があります。

### 3. 関係会社に対する金銭債権および金銭債務

短期金銭債権	62,390百万円
長期金銭債権	881百万円
短期金銭債務	87,610百万円
長期金銭債務	30,382百万円

## 損益計算書に関する注記

### 1. 関係会社との取引高

#### 営業取引による取引高

売上高	104,263百万円
仕入高	173,957百万円

#### 営業取引以外の取引による取引高

受取利息および配当金	6,047百万円
支払利息、その他	1,826百万円

### 2. 製品不具合対策費

パワー半導体の特定分野向けの一部の製品について不具合が生じたため、製品不具合対策費(25,727百万円)として特別損失に計上したものであります。

## 株主資本等変動計算書に関する注記

当事業年度末における自己株式の種類および株式数

普通株式	6,457,667株
------	------------



## 税効果会計に関する注記

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

### (1) 繰延税金資産

退職給付引当金	18,440百万円
投資有価証券	5,911百万円
たな卸資産	4,993百万円
未払従業員賞与	3,896百万円
その他	11,546百万円
繰延税金資産小計	44,788百万円
評価性引当額	△ 7,739百万円
繰延税金資産合計	37,048百万円

### (2) 繰延税金負債

その他有価証券評価差額金	△ 23,153百万円
投資有価証券	△ 1,357百万円
その他	△ 222百万円
繰延税金負債合計	△ 24,734百万円
繰延税金資産（負債）の純額	12,314百万円

## 関連当事者との取引に関する注記

子会社および関連会社等

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	議決権等の所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
子会社	富士電機フィアス(株)	所有 直接100%	資金の借入	資金の借入れ(注1)	19,918	短期借入金	19,918
			ファクタリング	ファクタリング	50,713	買掛金	19,224
			製造設備のリース 役員の兼任	リース取引高	18,997	リース債務	41,982

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 富士電機フィアス(株)からの借入金金利は市場金利を勘案して決定しております。取引金額は、年間取引の純増減額を記載しております。

## 1株当たり情報に関する注記

(1) 1株当たり純資産額	1,989円37銭
(2) 1株当たり当期純利益	151円16銭

以上

## 連結包括利益計算書 (自 2020年4月 1 日 至 2021年3月31日) (ご参考)

(単位：百万円)

当期純利益	45,342
その他の包括利益	
その他有価証券評価差額金	11,400
繰延ヘッジ損益	553
為替換算調整勘定	5,935
退職給付に係る調整額	4,419
持分法適用会社に対する持分相当額	△215
その他の包括利益合計	22,094
包括利益	67,437
(内訳)	
親会社株主に係る包括利益	62,796
非支配株主に係る包括利益	4,640

## 連結キャッシュ・フロー計算書 (自 2020年4月 1 日 至 2021年3月31日) (ご参考)

(単位：百万円)

I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	26,931
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	23,477
〔I + IIフリー・キャッシュ・フロー〕	(50,408)
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△39,520
IV. 現金および現金同等物に係る換算差額	680
V. 現金および現金同等物の増減額 (I + II + III + IV)	11,569
VI. 現金および現金同等物の期首残高	63,746
VII. 連結の範囲の変更に伴う現金および現金同等物の増減額	16
VIII. 現金および現金同等物の期末残高	75,332

以 上